



**岡本真利子**  
議員  
(政風クラブ)

**問** 防災計画の見直しに係る課題は「減災」を視点に幕別町地域防災計画の見直しを行っている

**問** ①現在の幕別地域防災計画は平成19年8月に、防災対応マニュアルは平成21年3月に改定されたもので、現在、見直し作業が進められているが、いつ完成するか伺う。

②地域防災計画の策定において、防災会議の委員に女性が一人も登用されていなく、防災には女性の視点が不可欠である。防災会議に女性の登用を検討し、女性委員の参画について伺う。

③自然災害に備え、防災、減災に欠くことのできない共助の要となる自主防災組織。町として自主防災組織の出前講座の推進をどのように努力しているか、町民の防災意識向上のためにハグ(HUG)を使っての訓練、避難所一泊訓練、冬季訓練の実施の考えを伺う。

④町で災害が発生した場合、職員の仕事として日頃から防災に関する知識や意識向上の教育はどのようにしているか伺う。

**町長** ①市町村の地域防災計画は、国や北海道の防災基本計画等との整合性が求められることから、これらの計画後になり平成25年度になると考えている。

②実際の災害時には、女性の役割は重要であり、計画策定時においても女性の視点は望ましいものと考えているが、委員の募集においては、残念ながら女性からの応募はなく、結果的に委員の中に女性がいないう状況となっている。

今後の計画策定作業では、パブリックコメントを初め、住民の方に説明する機会を設けて、女性を含めたさまざまな意見の反映に努めていきたい。

③本町の自主防災組織の組織率は、本年4月1日現在、自主防災組織設立公区は22公区で、その世帯数は4784世帯に及び、町全世帯に対する組織率は40・6%となっている。

災害が発生した際には、地域の

初動活動において、自主防災組織の活動が重要であるとの考えから、町としては、公区長会議を初め、さまざまな機会をとらえて、自主防災組織設立の必要性を伝えるとともに、出前講座の案内も行っている。

避難所運営訓練のためHUG(ハグ)を購入し訓練を実施する方向で準備を進めており、10月中には購入できる予定である。

避難所一泊訓練及び冬季避難訓練については、今後、実際に避難訓練等の実績のある公区からの意見を聞いて、実施に向けて検討していきたい。

④職員には、町防災計画に基づき、災害の規模等により職員の非常配備体制や業務分担を定めていることから、迅速な行動がとれるよう周知を図っている。

災害は予期せぬときに来ることから、日ごろの心構えと迅速・的確な行動が求められるので、今後

とも、災害対応についての定期的な職員研修等を実施するなど、職員に対する意識向上に努めたい。

**再質問** 避難訓練では市街地の方の参加を呼びかけたり、地震が治まるまでシェイクアウト訓練(自主参加型防災訓練)を取り入れたり、被害を最小限に抑え円滑な避難をするには、普段から行っていないことは危機の時もできないのではないか。

**答** 今後もシェイクアウト訓練等に向けて、さらに研究を重ねていきたい。



鉄南4公区合同防災訓練の様子